時雨會

文化十一甲戌年十月十二日於義仲寺奥行

百韻一項

還古　千影　石水　青糸　菖胡　汲波　滋雇

水よりかけ出る板のひさく　朱友
傘よ貸て京をいかうるとり　梅治
ゆとりのもめ物はのちつのさ　可善
渡るの類出るかとよろして　芙蓉
ちのこのさ物男ちのふう　湖胡
ちりもうれ意のかりの峯ひし　東邦
紫漬けてむしかりくり　古学
梅の朱ぬりくと太りるもの　可作
りれかとゆてきるもの子　悄月

貢選い菓屋うぬるみるかりあけて　其山
九月の赤ぬ赤きを　何仏
厂のねよのせるとうるぬるの　来章
ちのかるへを人うかる　烏頂
ひもくと花ぬいもる西の家　宇洋
莖よ廉い角をぬうて　狩渓
一むきの道ぬつきてりきよ　古猿
砂をうやよりつ井ぬ井戸　破鶏
かぬきの上宵よりくしきれ　賈亭

以く聖歳の若ハまと寒ら
芝法の宗祇も爰をとゝ花て
何の事もなき猫の蒟蒻　相雲
朝のまに仏ハ生れたまひゝ　我叡
枫の竜のさゝ海を風雲の陽　洋風
翌翌ゝも百年出る網の綜　千尚
保夏の星まて移のひゝ変　因春
ゝれかこ芝猫のゝ穂出ゝも　春渡
末楼戸行けて癒ゝ出ゝん　花月
虎絡
執筆

四季ゝ細

大仏の動くひまゝ初時雨　仲加上の翁淡
蛤もふゝて行ゝて初ゝく礼　千葉
出ゝて行ゝう蛤ゝ屋根の哀の当　丑志
秋の杜ゝ氣ゝ動れハ出ゝ礼ゝ　松寓
十月の月ゝ霜ゝ解ゝ氷のもの　古文
山蜂の巣ゝ出ゝる小ゝ蜂ゝ礼　井水
茂ゝる月也ゝ秋永のかり菊　青李
高月也ゝ俳諧行上の古ゝ巣　呉雲

[illegible]の庭のきくよ雨のふるれば　苔語
風さへ[illegible]も菓のよう[illegible]　いせは三叩
[illegible]ふれば枕をはげまし秋時雨　阿馬
聖[illegible]よ日ハ[illegible]てよりさるれ　宗巴
古道も志神よりけりしるれ　岩舟
吹[illegible]琴うつ流雨の山うつる　白洗
朔[illegible]紅葉う嶽ハまさるとあり　棠凡
子を番より[illegible]夕時雨　羅道
又六つをもるの[illegible]　山田　斗泉

川中[illegible]れを[illegible]　尾[illegible]　遊人

舟中

朱うしの次広ゆ[illegible]三りの月　岳輪
柱柳うこくちのうれもとあり　[illegible]　橋美
[illegible]ちもあ[illegible]ゆ[illegible]日　[illegible]　丁加志
夕[illegible]山の裏をら　[illegible]　吐風
蛙よ[illegible]　梅甫
荆カのいもも[illegible]雨　五[illegible]
線[illegible]なか[illegible]夕時雨　文[illegible]

ふるゝ／秋ささうの雨おすひの　風逸
しくるゝや岩さくらの山　知方
はる附山のあと穂ゝ法ゝ花ゝ雪　似瓢
菊てのあとを法めゝゝゝ時雨　雅吟
ものゝ葉ゝ紅葉て時雨ゝゝゝ　孟桂
ゝゝ迄ゝて清のゝゝゝ慶時雨　梅枝
ゝゝ／ゝ萩の葉ゝ水表雪　知素
るさい月ゝ寂ゝゝゝ／ゝ　楚江
古ゝ当の紅風ゝゝゝ時雨　花交

ひゝ山迄の广ゝゝゝ雪ゝ　雨格
ゝ風の霜ゝゝのゝゝゝゝ／ゝ　雪竹
蕭ゝゝゝゝゝゝゝゝ／ゝ時雨　義風
ちのゝ法くゝのゝ仏の猴ゝ紅雨　暮月
錄ゝて葉史ゝ書ゝ山ゝ雪　花石
紅かゝて舟ゝ京ゝ和の時雨　古舟
ゝくゝゝ月ゝ迄紅の高ゝゝ　篤保
明月ゝゝゝ花ゝゝゝ／ゝ　京石
ゝゝ乃ゝ／ゝゝの神ゝ　芋集

今とても若き時雨れ　起石
雪よりもしら人はかなしれ夕時雨　白軒
多仙の根まで紅葉山彩れ　兄才房主　寿来
小雪の山もそなきぬ小さ弟のる　素流
牛る時鶯ら春う霧さむしよ　完童
そなたもそ歳の横てと人のり　完林
江の水人うたのうたてうの　完圃
京八月紅しかりてしそなれる　金夫
しをうもやうの宗よ蓮た　完楷

ちくうしとまうし神うき人やうの　竹馬
波の花を眉毛ちうて横央よ　尾雪
波ふして多風ちうく蓮ちう　百梅
ちくうもそ多ちかきぬいるて山　文齢
ら降く水よ雪の影て飛　徐碎
灯のかけよ髪梅ちかりまうり　可道
かりうさ人の花かよそれ義　莫明
菜の花や湖さうのて見て山る　悠生
ちせ紙ちやちうの接新　カバ寿兵

初しぐれ　板のはたのふくるゝ勢　乞舟

さゝらゝ也　雲よりかゝるその味て　雪鉢

うゝ花の月や　明雨ハ西へゆく　羽柱

横しぐれ　曲まとなる　なをふき通す　嵐蓑

さゝらゝや　冲よりうつむ　村さめ　牛爰

うゝ史ハ　杉よ文うり　明雨　赤風

三日月を　行かくるゝ　雨　梅壺

海土うゝ戸さして　ゆゝ野　半バ　小爰

かゝ　岩ゝ　ゝゝを　ゝ　ゝ　ヤクニ　来圃

雪かゝる　ゝゝ　笠のゝ　永帝　ウチノ　風雪

里人の　神ハ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　長分

大雪や　ゝ花を　山ゝ　庭の　ゝ　江戸　成爰

ゝの　世　ゝ　ゝ　余　ゝ　雪　武ゞ千住　道彦

降雪の　ゝ　新　ゝ　ゝ　陸の三本松　玉村

淵の　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　淵水

夕　ゝ　ゝ　山　ゝ　ゝ　ミ長　木京

時ハ　名　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　白い　ゝ二

雪の　杉　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　立八戸　仙風

山茶花や市の隠れ家ふりかけ　下地三郎右衛門　可笑

色ハ波と河川と色しくれかな　長の古田　菜支

遊風し池辺の柳ふる郷　里指

ひとり秋の菜とつゆ村雨　かな山　芝国

あ市や市ちよ波ちまれうろ　ちか厨ら　苔坊

ふるし蓮ひともすき時雨の風　そさ小ふた　小雅

五かゆの手菜物も多時雨　冊ハさ山　古豊

坊うるや蕎麦ゆも小風ち家　かめ山　地楊

ちらうつゆ雨ちうれひ来　ひうう　謝友

れうて寂れいちもるしくれか　灰采

誇ち月ちちうまて寂れい素々り　大山　梧朗

荷ひ出ちちうち地山のちき休　東屑

ちちちや多路まし田の月夜　白路

月川や寂れい秋のちうして　社寿

ちちちもまさ今ていまりの風　かな　増軒

面白や寂れちぬ秋ぬ学鞋　青吾

二三日ひ月てしを秋雨　武陵

牧草や しく初の影ちもかゆ　丹后三ヤつ　美穎

きくもあはとゝ麻ゆきてい四の路　磨蔵

茶のとや弾味ようきるちりの案　但ちゝとゝ　昌平

俳子の菓子はうるもちつけ雨　落穂

ゆ雪ゆの刃撃をかせい時雨ちり　落穂印男　老恵

宿うて最きいとくきの通ろ紅　椎夫

紙ろ氣の夕飯時のしくれ　落雪

地保くゝ菓の坂ちゝの夕時雨　二石

三冊ちゝかねハ美ゆ時ちゝり　尼　妙音

ちり雪ちの月の刃ゝ山　木夏

少ゝ紅ゆてのちゝ月落　京走

杜冊ちゝ日ハちうすもゝゝゝ　蛍村

初雪もちくしめのるゝ世　京皐

ちうゝもゝ大根かゝ生る浪広の形　播广宝栗　立志

淋くもゝ行くの蔦る雪の音　默成

道ゝゝの芋ハうゝてくゝ紅ちり　飯中美とう　古音

月時ふちりてゝ紅ちうゝ　飯庄田ふさ　桃兄

温柿の華ちゝもちゝ雨　魚二

笠ゝる人ゆてゝゝゝ時雨　常樹

古義没せ給ひしハ甲戌寛永八

面をうつす行きの道ふる雪かな　六玖

行つゝて日ハ暮るゝ山時雨　左京　花蓬

秋〳〵く行色市をうれて五位の雲　桃雄

屋根葺て二夕色うり かゝ時雨　上下　素夕

つるゝときハ空の雨ふる雲かな　里蝶

芝茂てきくまの川風の涼雨うれ　暁雨

ゝるゝ初てくもの時雨の来りそり　若二

たつぬきハ道を少時雨　兼字

十月の末つかく尺せうの極の雨　如耕

ひと時雨来りし尺ゝ雲ちきれ　素隠

ゝゝも雲行の行ゝ界り　月　素路

鶯の川色多川ちゝ行ちゝ　素良

窓宵の雪を除ゝ雲ゝ時雨　知来　泊舟

明ゝ行色笠ゝ雲ぬ雲の時あ　安井　行中

出ゝれて小ゝ至うて芝の雲川くゝれ　安き二郎　圭路

千葉つゝきハ雁のせうむ日おか　麦塢

ひゝ川時ゝ雪を乃ゝ雲ゝ鶯の音　玄雄

鶯なきそれのこもも世のうり　周防柳之坂　自笑

十月の月色著きあるふ山のうね　若葉

山ちかく秋つきぬせてきそれうり　指月

ひとりふるよりの御かと雲うれ　梅里

一日のうし酒を月の波雨うり　其笛

月かけのうこきて言し詩二千葉　平生　巣雨

紫雨のくるる時こそ月しれ　支白

夕の雨れのひてきしかるうり　馬来

川ひとりふるてうちうてよ　出つかる月丸

一きしの雨ふるかれ雲ふ　梅江

夕月のうけよ波ゆくおちうれ　ね休

行くうう枯のこ雨よ時うう　蘭川

西よ雲よ月れ鳥ようちうてよ　毅海

月の雨のたううの雨の松　一柳

くくくくて庭出の里の小ふ多ふ　山笑

れ風のとれうのたる蕾雨れ　丁石

明りやくれのようとはせう　董路

月と日のるうて出て神れ　涯凡

秋の夜や方所よ京野なく　孤雲松とう　雨絃
秋の日ぞさせる流る壁月ぞ　壁陽
夢蘭と始人乱ぎさよ冬の山　景白
ひさしく歳暮も川のつり口　其白
かりもものぞ流るるもつるかり　素言
漁火も点れを遠川遠川かり　糸蓬
歩の菓のひうもかはれ小六月　秋水
長宋さもあるよかくるる時雨さ　老居士　梅庵
さ菓の色ふきかへて初しぐれ　玉水　麻人

菓初も友を乱して帰あそ　南始
時雨ていり夜よりるつ田れ　水哉
菓月よい栗はの焼ぬうき
非宵のくふいみよつて西忘をいるむ
ひと時雨角くるとて山　杵築　杜由
とくとくもくくつかいつ屋たり　日向城崎　可笛
ちち時いいんもとるもかへてれ　伽二
お所田も果いい時雨のさら法　杖力
かうれ行もいい湯きしさの雨　明之
楢のふ折落ふ彼ともをとり　中村　利涉

金根葦てさうもむ秋の時雨　接水
かゝる咲きかゝる中をもちかな　西花
芋もいうる板刻の時雨寒梅し　仁平　黄行
白くとるの足しそのの多の川　行之
初秋も移の加うしく粽太鞭　著水
さうの芋の芋もさくうし世日れ　[illegible]　賀之
小義ていてもぬまてんの時雨　当板
りしくれるのうかつ宮行　東籠

昔逢く餘と後初り花ハ

ひしくの八雲のもうつけ義の日　連山
形をうれ逢伯の松子をさくうそ　慶伯花鉢　嵐山
蔦る影をたくやみやうの小の京　鶯遠
小男庶の鳥をぬうもみる時雨　紀伊之介　文城
弾さもも麻耳よさるをさうれ　君然
ゝう所もしくうし彩よ郵たよ　青暁
思後八笠懐てゆくしく礼うれ　隠子
形一ね苦蔦のうよさ形ゆ　交三
さうもも祇頼松よ夕行の星　斗南

木うゑしもよく乃高る人の臭　河内賀宝雨
居う窠てさゝしこゝも桃の書　六方子　沙丘
秋乃夕かゝ流う一よ来ん蕎の書　大阪　井眉
朱の素ふる下もて宅也爭の鶏　星蘭
又ゝう夜居の鈴なしゝれうれ　君蓬
鈴〻雲よさゝんてゝ日のさゝ多素　諸留
杉の雪ゝ月を叶と降生さゝ　和有
ふゝかつる琴の世ハ一き手ゝ　其雪
ちゝうゝ二日ゝの蓬蓬ゝ　君雀

有明の行さゝゝ加尾也　由来
鈴売る鈴ハ爭ゝ杉ゝ山ゝ　至馬
爭ゝ紅杉明費ゝ出ひゝり　奇渕
いくゝ色義ゝ貫狐を知ゝ　佑　柄價
玉庄葉りくゝゝ時雨の一ゝ加　金葉
宇くゝゝの枯蓼ゝ時雨ゝ　杜蓼
杉風やゝ似ゝ時雨　梳窠
時雨ゝ也ゝ爭ゝ　尼　知了
杉ゝ也ゝ似ゝ生ゝ紅　二蜂

さくらがりの中よりあふうの恒の菓　横堂
澄てこゝろすみのやつしをれ　誇日
ゆくゑも山の雪よりものすごし　常宝寺田　去何
川あやをなどちりうつ巣たりて　幽山
さくらもあるかをとぬる蛙沸舟　宜兄
末を噛てこゝろやさかしきものまと　李中
万西の実をひとつ口よ雪のあ　五坪　玲一
初しぐれ菓の白ひの霧みゝ　遠ゝ　文風
さくらがりの中やあるかの夫なりる　玄哉

さくらがりの同あ菓しぐれ　三友
ひとし菓はしかるめてゝ反ゝ初菓　蓑会　陳新
うゝ雪よ微塵もたゝゝ者の月　文巳
まり風やとしぐ忠幼菓　笑山
ゝゝゝ多ひ罷かうゝ蓑藪　地福寺　拓家
宇ゝひすゝ石のかゝ坊やゝ柳うゝ　台浪　櫂舟
ゝ川雪やひうゝてゝ山ゝ石東　義舟
山鶯菓や雪の笠掘ゝ一ゝ仲　立竹
叶雨菓や淡菓よゝゝゝ淡師遠　芦門

[illegible]

[illegible]

おきなぶり　山島ふるさとの

男臺の踏むしてあり　大鋼こ事

雪ふりの月やそれ　他も　蒐集

進出せハ萬子の小ふるう　角秀

書むしろ　[illegible]　探し

[illegible]　注　[illegible]　吹朗

小窓する　棧の[illegible]　雨変

[illegible]

[illegible]　松牛

[illegible]　竹虎

三夏月より[illegible]蕉忌の遠忌と

[illegible]　孝相　[illegible]門

[illegible]　外山

三日月の四の[illegible]　常之　梅翠

十月の月出[illegible]　今代　月叢

[illegible]　の人

金沙布地四邊階道

石山やうに白み　旭　七田　埼里

きうりや屑但て取り枝　比良

蓋高や雲もわかう清て冬の

空しもやちゝ草の末の高上よ

蓮法のぬすもや夕時雨

袋子さと人うかゝん法の庵

ひとりく叫兎とたくる三井の鐘

水蓮の女の琴やもゝしゝ花

さくらや虹まて添て多象酒

しをるや蓮の下葉の枯荷る

吉野山下　如意

出羽背　洞爰

月下

上中旬　おさめ

月耕

深雅

大学寮　梅牛

梅窓

文政　梅之

さくらや行の僧の俗さ長

稲荷の竿さ挿るしゝ水

ひとしゝく花未蕊の初めて

いさうの雲さ花て時雨の花

さくらや雲まの庵の朝まゝ

江の蓮の水出る雨の雲

手をとくめかる路よ時雨の笠

さくらや鶯の笠かつゝ

雨晴の松さ雲て月の野よ蓮る

主殿寮　一峯

西海道　養枝

山上　鶴稙

一色　石仙

法地湯　法地

如来　何示

文井　宝童

八幡　春雄

筑前

秋の時とまして芳しき山　芳之
篠忘のやうよ芳しきうりとお葉　其芳
岸うりのほのかに島の芽　葉吹
朝雨のかくれや野の高ゆき　仙李
ちちのはしかかる夜うる　三省
さくらも稽の奥ふかうる　可盈
鄙後はよくく澄のひく時雨　辻村 恵雪
しくらも風さく薄所　柳窓
萩の戸ふ芳と叶雨のちちる　大伴女 岑枝

さくらも枕のうへ行くしゆく　胡戸
いそうしはとを月ぬ叶雨や　野峯

一座発句

笠の縁をうるも行ハ清の叶雨　紙中 市兄 周泰
しくれも芽ハ見るの机　法 花月
音清の水ゆる月雨うれ　虎谿
さくらも秋の赤くるの髪　浦玉水口 兎磧
叶雨して濡て孫ふ孫の家　坂本 詩凡
夕うしのぜ来るうれ初しくれ　千尚

丁一ゐ挑てしくさ小ちゐれ　大津　岸渓
しちれ木ちれの下掃て一休ミ　宇洋
米噛てちれの音をきしちち　烏頂
こくくの水ハふこちひと時雨　可答
時雨ちる示うぬくひう路ち路　米友
ちれ生ちれ後の小杉も修の葉　湖胡
葉刀のちれて寄ち資戸の川　汲波
時ちう雨ハ葉ちれ初しちれ　蕉衛
源義経古人形もちれちり　石水

山茶花のちれ形ちしミちも時雨　破路
ちくちや上野ハ撞ヤミて　多森
大原や杉一本ちしくくれ　東邦
桑のれハ一くち抜ちれ　泊霍
梅ちんてちもしくち枝を潜ち　菖胡
葉のれ杉ハかちちち横時雨　梅語
二日うち古ちしくれ成ちち　古堂
枯ちもひちれちち初時雨　丁坡
栗の葉の落ちハ杉ちて光時雨　蛸月

古さとの糸をもて来しうゑ松　其山
ひと叶雨ふるさとうゑ松の常ゑ　仁仏
一しきく礼しきく枇杷のこゑ　来章
別屋よ琴の変うり美叶雨　賀年
蛙の巣よ水素をとりて初叶雨　相君
をしさうよ古うゑの月の入なゝ　我寂
湖田門のすちうかいさく叶雨や　古徒
橋の素ゑ叶雨風とゆそて見岸　千影

蕉門書林　皇都寺町通二條
橋屋治兵衛梓

栗津義仲吟雨宮源

桐霸子